

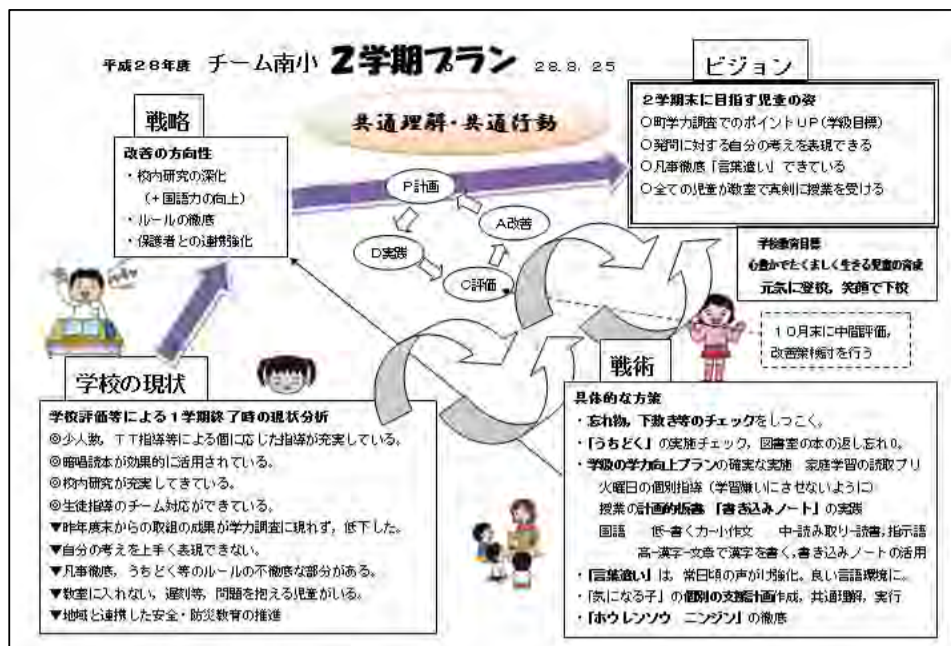
# 第1回 NITS 大賞（平成 29 年度）エントリーシート

宮城県大河原町立大河原南小学校 大友 慶一郎

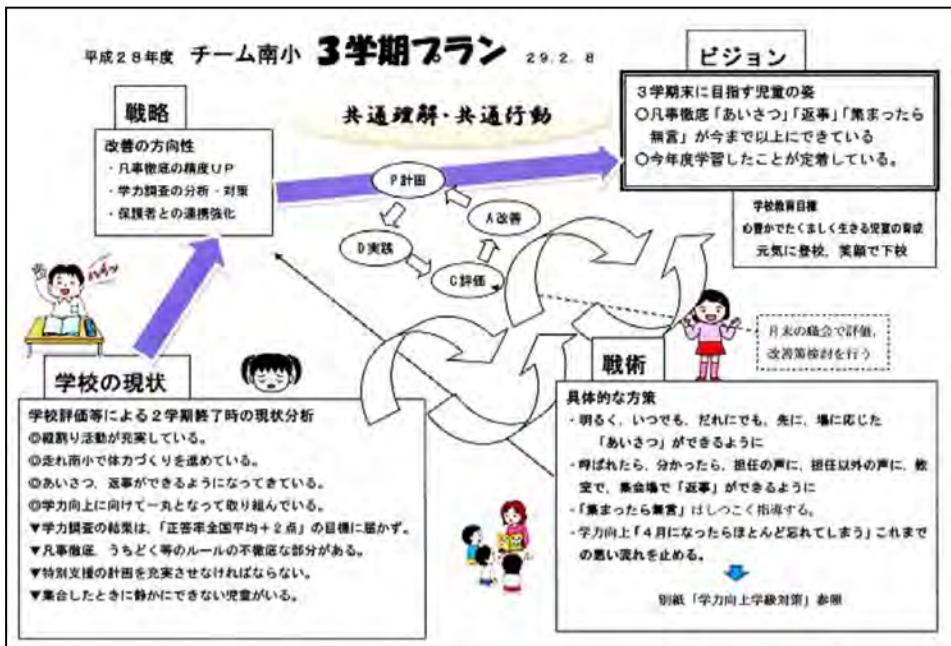
A-21

<p><b>【活動名】</b>「チーム南小学期プラン」～ 一体感を求めて ～</p>
<p><b>解決すべき課題</b></p> <p>教務主任として、毎学期の学校評価を分析していると課題点がほとんど変わらないこと、評価が低い項目は改善されないで過ぎていることに悩んでいた。有効な改善点の提案と改善に向けた教育実践が継続して行われていない結果だと思う。学校教育目標達成に向けた共通理解・共通行動等の教職員の一体感が欠けている現状がある。</p>
<p><b>目的や背景</b></p> <p>本校の教職員は、教育に熱心であるが、皆が同じ方向を向いて職務に当たっているとは言えない。学校経営目標と重点努力事項について、必ずしも全てに於いて共通理解・共通行動が十分に図られておらず、教職員の力が分散され、思うような教育効果が得られない。私は、教職員が一体感をもって職務に当たり、児童も生き生きと学校生活を送る、そして、1年間の成長を共に喜び合えるような活力にあふれた学校にしたいと願う。</p>
<p><b>活動内容</b></p> <p>課題解決に向けて、中央研修の講義「学校ビジョンと戦略」（以下：講義）で、広島大学教授 曾余田浩史 氏から、「マネジメントは、資源を生かしながら協働を通して、目的を効果的に実現し成果を上げていく営みであり、よい教育を行うためにはマネジメントが不可欠。」という言葉が大きなヒントになった。マネジメントの考え方を取り入れて、全職員が一体感をもって教育に取り組むための活動が必要であった。</p> <p>私は、まず、「何を指して」「いつまでに」を明確にするために、1年間の目標を3学期に分ける短いPDCAサイクルで回すことを考えた。さらに、学期毎に教職員の願いから具体的な目標と手立てを確認し、学校教育目標の実現に向けて教職員の一体感を高めたいと考えた。</p> <p><b>1 P（計画）</b></p> <p>講義では「マネジメントの基本モデル」が示され、マネジメントが現状から戦略をもってビジョンに向かう登り坂のイメージであることを学んだ。これを参考に、教職員が必要感をもって取り組むことを第一に考え、「学校の現状、ビジョン、戦略、戦術」を1枚の構想図にまとめ、PDCAサイクルの可視化を図った。それが「チーム南小2学期プラン構想図」（資料1）である。話し合いの際に大事にしたのは、このプランの必要性について全教職員の理解を得ることである。私は、教師としての使命感とやりがいを熱く語り、チームで実践する重要性の周知に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 学校の現状 講義から学んだ「現状分析から始まるPDCAが必須である。」ことに従って、まず、1学期末の学校評価会議の内容から現状分析を行った。</li><li>○ ビジョン（学期末に目指す児童の姿） 本校では、重点努力事項の具体策が全ての教育活動を網羅する形で50項目を越えている。項目が余りにも多領域、多数に渡っているため、焦点がぼやけていた。そこで、重点努力事項の中から、特に改善が必要と思われる項目を3、4点に絞り、ビジョンを設定した。 教職員の強い願いをビジョンとして掲げることが重要であり、全職員が納得してビジョンの実現に向かうことで、強い一体感が得られると考えた。</li><li>○ 戦略（改善の方向性） ビジョンに向けて何をすれば現状からの脱却を図れるのか、細かい戦術を決める前に大まかな戦略を話し合った。</li><li>○ 戦術（具体的な方策） 戦略に則った戦術を話し合った。できるだけ具体的に実行可能で効果的と思われる方策を考えた。</li></ul> <p><b>2 D（実行）</b></p> <p>戦術を実行するに当たり、全体でまたは学年部で具体的な方法や役割分担、時間等を設定するなど、確実な実行を目指した。各学年部には、若手とベテランの教職員が配置されているため、ベテランが若手に指導技術を伝達する機会になることにも期待した。教務便りで取組を紹介したり、機会がある度に校長、教頭から活動に対する称賛と激励を受けたりして、教職員は意欲を高めていった。</p> <p>【実際に行った戦術の例】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>生徒指導 ・あいさつと返事のレベルを上げるように、学級毎に目標を掲示し、毎日評価する。 ・廊下を静かに歩かせるために、「走るな。」とは注意せず、「歩きます。」「戻りなさい。」と声掛けをする。</li><li>学力向上 ・火曜日に「学年教材研究タイム」を設定し、板書計画、主発問等について学年で話し合う。 ・各種学力調査の分析をもとにした学年毎の「学力向上学年対策」（資料2）を作成する。</li></ul> <p><b>3 C（評価）、A（改善）</b></p> <p>PDCAサイクルを円滑に回すために、特に「評価」を計画的に設定した。（資料5）戦術の有効性とビジョンへの到達度を評価する「プラン評価会議」では、アンケート調査の結果（資料3）から、少しでも良い成果が表れれば大いに喜び合い、達成感を共有した。そして、保護者や児童の学校評価も参考にして次学期プラン（資料4）につなげた。</p> <p>2学期に設定した「中間評価会議」では、講じた戦術の改善方法を探った。話し合いは、シンキングツール（資料6）を用いたワークショップ形式で行った。学力向上については、学年毎の戦術を全職員で共有した。（資料7）</p> <p><b>4 保護者、地域との協働</b></p> <p>作成したプランは、職員室に拡大表示（資料8）した他に、廊下や校長室への掲示、学年便りに掲載するなど、保護者や地域の方々、児童の目にも触れるよう仕掛け、学校、保護者、地域で共有するように働きかけた。</p>
<p><b>活動の成果</b></p> <p>生徒指導については、例えば学校評価の「あいさつ」の項目において、取組後に大きく評価点が上昇するなど、課題であった項目の改善が見られた。学力向上についても、標準学力調査の平均点が大きく上昇し、全国学力・学習状況調査では、昨年度に国語 A,B と算数 A,B の全てが全国平均を下回ったのが、今年度は国語 B を除いて全国平均を上回った。</p> <p>明確な共通のビジョンに向かうことで、温かくも熱気にあふれた学校の雰囲気になり、私が求めた「一体感」を感じるようになった。朝のあいさつ運動に担当委員会以外から進んで参加するなど主体的に活動する児童の姿、毎日のように学年で板書計画や発問を話し合ったり、生徒指導で効果的だった声掛けを伝え合ったりする教職員の姿など、これまではあまり見られなかった姿が見られるようになった。ある職員が私に言った「一丸となると明らかに変わるものですね。」という言葉がこの取組の効果を物語っている。また、ベテラン教員からのアドバイスを若手教員が積極的に取り入れ、OJTの推進にも役だった。</p> <p>学校評価アンケートの結果、「学期プランの必要性を感じるか。」の問いに対して、平均 3.24 ポイント（1～4 段階評価）と高い値を示し、会議等の取組時間についての自由記述では、他の会議等の精選や時間短縮の意見がでるものの、「必要なことだ。」「大変勉強になった。」「やる気がでてよい。」といった肯定的な意見のみが集まった。このことから、教職員が取組に意義と使命感をもち、ビジョンを共有し共通行動で実践を行ったことで、満足感が得られ、多忙感解消にもつながったと考える。</p>
<p><b>アピールポイント（アイデア）</b></p> <p>私は、研修で学んだことを基にビジョンを絞り、短い期間でのPDCAサイクルを回そうとプランを構築した。そして、地域と保護者の方々の協力を受け、児童の成長の実感と教職員の一体感を得ることができた。特に重視したのは、「教職員の心に火を灯す」ことである。「我々が手を組んで、目標を絞って全力で取り組んだら何ができるか・・・。」と煽るように説得したり、少しの成果も取り上げて喜び合ったりするなどして教職員のやる気を高めた。今後、継続して取り組み、ミドルリーダーの立場から学校経営目標の具現化に力を注ぎたいと思う。そして、成功例として教務主任者会等で紹介していきたい。</p>

【資料】「学期プラン」～ 一体感を求めて～



資料1「H28年度チーム南小2学期プラン構想図」



資料4「H28年度チーム南小3学期プラン構想図」

**学力向上学年対策**

<国語>

1年

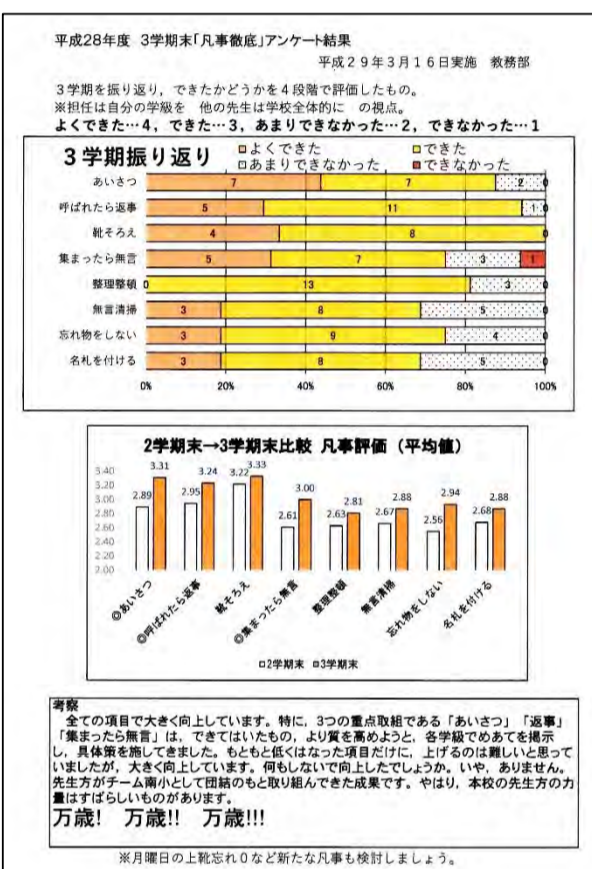
先生といっしょにがんばりましょう!

・毎時間、「めあて一音読一読み取り一まとめ一振り返り」の流れで教科書の説明文や物語文の内容をじっくりと学習する時間を確保し、読解力を身に付けさせる。  
・漢字やことばの学習は、別の時間に行い、基礎・基本を身に付けさせる。  
・話し合いの仕方を学び、互いの考えを伝え合う活動ができるようにさせる。  
・「寿限無」の暗唱、読書活動や読み聞かせの充実、音読、家庭学習の定着を図る。

(追加項目)

- 音読の機会を増やすために、読解の時間以外の漢字やことばの学習の際に、導入や終末の時間を確保し、説明文や物語文の音読練習を行う。また、「寿限無」の反復練習・暗唱テストも合わせて行う。
- 話し合い活動では、話型や話し合いに使う言葉や学ばせ、ペアによる伝え合いができるようにする。
- 12月の学カテストに向けて、朝の15分間で、算数の1学期の既習事項を中心に学習を行う。

資料2「学力向上学年対策」  
※赤シールは、改善策。

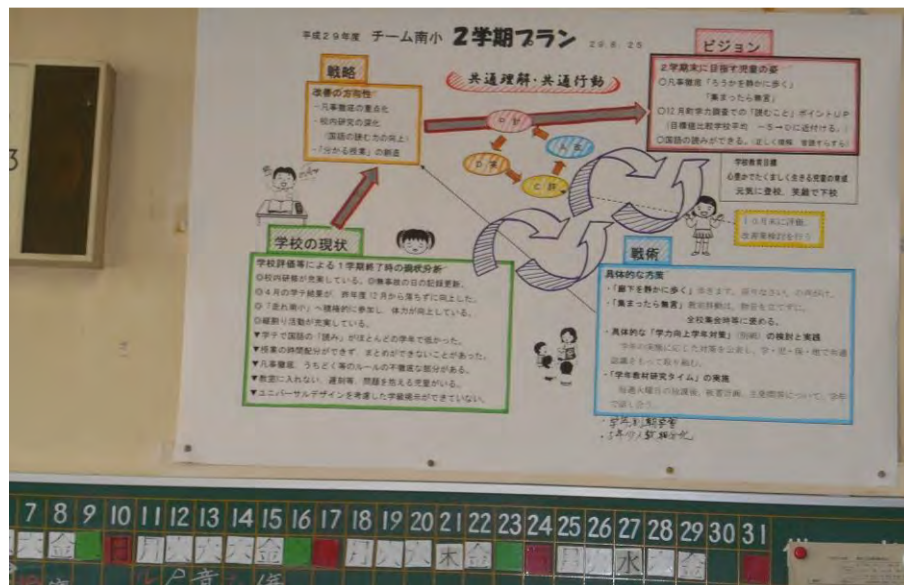
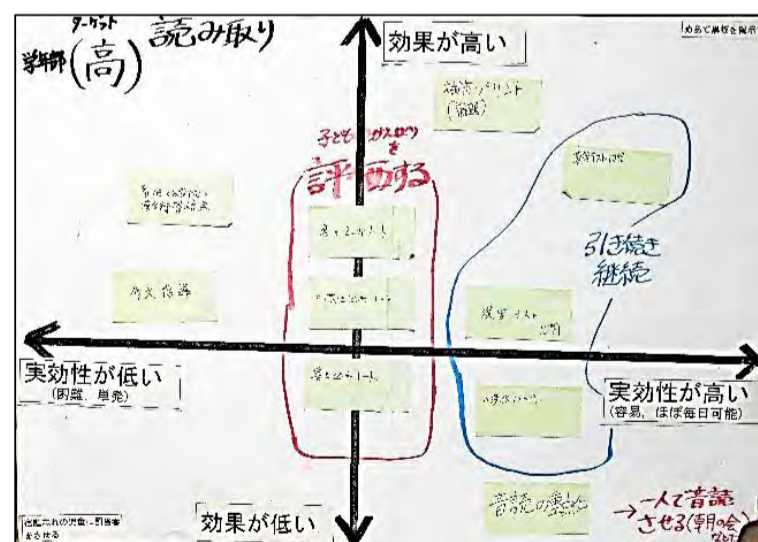


資料3「学期末凡事徹底アンケート結果」  
※重点項目以外も向上する結果となった。

チーム南小 学期プラン活動経過

年度	月日	活動
H28	7.19 ~8.5	中央研修参加
	8.30	8.22 学校評価を受けて 2学期プラン会議
	10.31	2学期プラン中間評価会議
	12.14	アンケート調査
	12.26	2学期プラン評価会議
	1.13	アンケート調査
H29	2.8	3学期プラン会議
	3.16	アンケート調査
	3.23	3学期末プラン評価会議
	4.4	1学期プラン会議
	7.25	2学期プランアンケート実施
	8.22	2学期プラン会議
	11.2	アンケート調査
11.13	2学期プラン中間評価会議	
12.25	2学期プラン評価会議	

資料5「活動経過」



資料8「職員室に拡大掲示した  
H29年度チーム南小2学期プラン」  
※中間評価による改善後のプラン



資料7「中間評価学年部発表」  
※資料2「学力向上学年対策」の成果と改善策についての発表